

生活科 授業の構想

(2年1組)

授業者 玉井 一行

1 単元名「ぼくもわたしもたんけんたいⅡ」

2 研究授業のテーマ

○繰り返しかかわる活動を重視した町探検を行うことによって、自分と地域の生活圏とのかかわりを広げたり深めたりできる。また、その新たな自分への気付きによって自己認識を深めることができる。
【単元全体にかかわって】

○地域の生活圏(附属小学校周辺)へのかかわり(多様な人々、施設等とのかかわり)の広がりや深まり(自分と地域とのかかわり方の変容に気付き、新たなかかわりを求めようとする)ができる)をねらい、町探検②の交流活動を行うことによって、自分と地域とのかかわりに気付くことができる。
【本時にかかわって】

3 単元のねらいと子どもの実態

本単元は学習指導要領、各学年の目標(1)・(3)と、内容(1)・(3)・(4)と主に関連しています。特に内容(3)の「自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする」ことと大きくかかわっています。

第1学年で活動の拠点となった学校内とその敷地内は、子どもたちの生活圏となっていました。第2学年では、慣れ親しんできた附小の森やプレーグラウンドから、学級みんなで出かけた井上靖通りや住吉公園など「附属小学校周辺」へと自分の生活圏を広げていく活動や体験を大切にしています。

子どもの実態で着目したことは、バス通学をしている学級の半数以上の子どもはもちろん、通学路と

して毎日見ているはずの徒歩通学の子どもであっても学校周辺の「ひと・もの・こと」についてのかかわりはほとんどなかったことです。学習開始前に地域の人々へ声をかけたり、会話したりしたことのある子どもは6名という実態でした。

そこで、地域の「ひと・もの・こと」と繰り返しかかわる活動を重視して、地域への親しみや愛着が深まること、自分とのかかわりを意識することによって新たな自分を発見することをねらいました。その中心となるのは地域の人々や様々な場所での新たな発見や調査活動を楽しむ「まちたんけん」です。「まちたんけん」を単元内で2度行うことによって繰り返しかかわりから自己認識を深め、新たな自分を見つめ直そうとする子どもの姿を期待しています。

《子どもの実態調査の概要》

- ◎学校付近の場所によく行く場所としては、1年生の時から生活科等の学習で活動している住吉公園である(全員)。2番目が春光サティであり(35名)、その他の場所については、あまりかかわりが強いとはいえない。
- バス通学の子どもは附属小学校付近の施設や商店とのかかわりが少ない。(56%の子どもがバス通学である)
- 学校付近の「ひと・もの・こと」については、知らないことが多い。

4 単元の目標

- 附属小学校周辺の町(地域)の人々や、商店、施設などの様子などを進んで見たり、調べたりしようとする。 [自然事象への関心・意欲・態度]
- 町(地域)の人々や商店・施設などと自分とのかかわりを広げたり深めたりすることができるようにする。 [活動や体験についての思考・表現]
- 身近な人々と積極的に挨拶したり会話したりすることで、地域に対する親しみや愛着が増し、自分とのかかわりの深まりに気付くことができる。 [身近な環境や自分についての気付き]

5 単元の指導計画(19時間扱い～本時18/19時)

- 第1次 まちたんけんにてかけよう……………5時間
- 第2次 みんなにしらせよう……………6時間
- 第3次 まちの〇〇さんをしょうかいしよう……………8時間(本時7/8)

6 研究内容とのかかわり

(1) 体験活動を充実し人と自分とのかかわりから自己認識を高める単元【研究視点1の2】

繰り返しかかわる「まちたんけん」 本単元は、第2学年における【実感単元】として設定しています。その中心となるのが「たんけん」活動です。ここで大切にしたのは、生活科本来の「子どもたちのわくわくどきどきする体験活動」からの興味・関心の高まりです。2度のまちたんけんを構成することにより、1度目の「たんけん」活動では、調査よりも、「自分たちの知らないことの発見」を重視することができます。このことにより、意欲的にかかわりを重ねることが期待できます。第1次の「まちたんけん①」と第2次での表現活動などで獲得した以下の基礎的・基本的な内容は第3次での「まちたんけん②やその交流活動」の中で活用されます。繰り返しかかわることで、まちの人々に対する自己認識の高まりを目指しました。

＜本単元で基礎的・基本的な内容となる具体的な活動や体験＞

- ◎安全に気を付け、身近な人々と適切に接することができるための活動や体験
 - ・身近な人々と挨拶したり、会話したり、質問したりできる活動
 - ・学校から出かけて、新たな発見(身近な環境に対する気付き)のできる活動

⇒「まちたんけん①」と「まちたんけん②」の繰り返しかかわる活動

＜まちたんけん①で重視すること＞

- ・新たな『発見』への感動
～学校周辺に対する興味・関心の高まり
- ・調査・探検活動の学び方
～挨拶の仕方、質問の仕方、安全な歩行
- ・表現方法(伝え方)の工夫
～紙芝居、クイズ、新聞など

＜まちたんけん②で重視すること＞

- ・新たな発見への『こだわり』
- ・調査活動への自信
- ・活動への確かな見通しをもった学習
- ・まちの人々とのかかわり方への自信
～礼儀や会話、気持ちの伝わり方など
- ・まちの人に対するかかわりの充実
～自分のお気に入りや親しみ、愛着

(2) 町の人々と自分とのかかわりの深まりが実感できる単元構成の工夫【研究視点2の2】

本単元では、附属小学校の周辺(地域)の「ひと・もの・こと」が、何度も子どもたちが繰り返しかかわり続けることのできる「生活圏」へとなることをねらっています。そのために、単元内においても繰り返しのある「まちたんけん」の活動を保障しました。しかし、ただ繰り返しかかわるだけで子どもたちの自己認識が高まるわけではありません。以下のような点から単元構成を工夫しました。

発見を重視した まちたんけん①

子どもたちの町に対する興味・関心の連続化・発展化を大切にしました。



新しい発見を重視したまちたんけん①

ですから、最初のまちたんけんでは「みんなの知らない何かを探してこよう」「町の秘密を見つけよう」といった発見する楽しさや喜びを重視しました。そこでの町の人々との出会いや触れ合いが本単元から始まる生活圏の広がりへの基盤となると考えたからです。

<出会いの活動の工夫>

- 附小の周りの春探しとして2方向(うち1回は図工の活動)の活動範囲を全員で歩いた
 - ・ 附小周辺の自然環境への興味
 - ・ 活動範囲の限定や危険箇所の確認
 - ・ 知らない場所が多いことの気付き

<子どもの意思を尊重した探検隊の編成>

- ・ 行ってみたい場所
- ・ 聞いてみたいこと
- ・ 探検隊のルール(隊長がまとめ役)

<個を生かす多様な表現活動の工夫>

- ・ 多様な表現方法の紹介と助言
- ・ 記録写真の活用(保護者の授業協力)



分かりやすく伝える準備

こだわりを求めた まちたんけん②

まちたんけん②への活動意欲の醸成には、まちたんけん①での発見について分かりやすく伝え合った探検発表交流会が重要です。多様な表現活動(クイズ、紙芝居、新聞、探検隊の再現活動等)は、子どもたちにとって楽しい興味を喚起する活動です。一度行っている「たんけん」の多様な広がり(場所、人々、まとめ方を意識した調査など)や、更に詳しく調べたいという深まりを大切にしました。

繰り返しかかわる活動が子どもたちと町(地域)とのこだわりをもった活動となるために、計画段階を重視しました。「まちたんけん①」の体験からの気付きを生かすようにします。

<まちたんけん②活動計画の工夫>

- ・ 第2次での探検発表会の感想交流(調査活動の視点を焦点化しておく)
- ・ 活動の見通しをしっかりとめたせる工夫(まとめの活動をイメージする)
- ・ 調査内容・方法について吟味(人とのかかわりを重視、インタビューする中身)

他教科等との関連的指導の充実

子どもたちの「生活圏」となる活動は生活科だけではなく、低学年の全教育活動との関連があります。そこで、他教科等との関連的指導を計画的、有機的に進めることが有効です。

本単元における主な関連的指導の具体は以下の通りです。

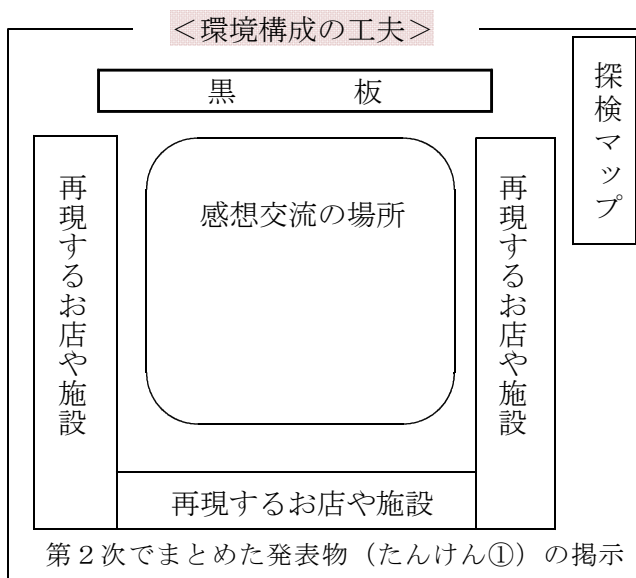
- ◆図工「春になると（絵画）」 ⇒第1次での春探しの活動と同時に行うことで、附小周辺の環境に対する興味付けと、安全な活動への配慮が可能
- ◆国語「たんけんしたことを（作文）」 ⇒第3次での「まちたんけん②」までに行うことで、まちたんけん①の体験を生かした作文学習が可能となり、まちたんけん②の前に話し合う活動が調査活動で活用可能
- ◆道徳「わたしのしごと（勤勉・努力）」 ⇒まちたんけん①とまちたんけん②の間に行うことで、町の人々の仕事への真剣な態度について意識する視点をもつての調査活動が可能

(3) 相互触発の機能を収束に生かす手立ての工夫【研究視点3の2】（本時）

本時で行う交流活動は、まちたんけん②で発見したり調査したりした町の人（〇〇さん）や施設の紹介とその感想の交流です。探検について紹介し合う活動は、お店やさんごっこの様なセッション形式で行います。一層まちへの愛着の気付きを生むためにいかに町の人になりきるのか、道具や言葉遣いなどの工夫がポイントとなります。

相互触発を生む環境構成の工夫

まちたんけん②の再現活動では、それぞれ子どもたちなりのこだわりを表現します。町の人々として役になりきる活動と、そこへ探検隊として行く子どもたちの活動は、自分とのかかわりを疑似体験の中で意識することになります。感想交流では再現活動の工夫のよさだけではなく、町の人になった意識や、自分と町の人としての気付きを交流し合います。



収束を図る資料提示の工夫

本時の交流活動で収束を図るのは、「町の人に対するかかわりの深まり」です。町の人に対する親しみや愛着の深まりに気付いたとき、子どもたちは繰り返しかかわり続けることのできる「生活圏」を広げたこととなります。「町の人に対するかかわりの深まり」への気付きは新たな自分への気付きをねらっています。

資料選択の視点

- ・町探検の中で、より人々とのかかわりを意識することのできるエピソードを交えた写真や保護者の感想等の提示（愛着や親しみの気持ちが具体的に表出されているもの）

単元構想表（19時間扱い 本時18／19時間）

次	時	学習の流れ	主な学習活動	教師の働きかけ
第1次 まちたんけんに出かけよう (5)	③	対象との出会い	○町に出かける まちに何があるだろう	◇見つけたよカードの用意 図工「はるになると」との関連的指導
		共通課題の設定	○五感を生かしての調査活動を行う	◇事前調査結果の提示（まちのことを知らない自分たちに気付かせる）
	②	活動への見通し	まちたんけんをしよう ◇インタビューカードの用意	
		個性的な追求活動	○自分で探検してみたい商店や施設に行く 附属幼稚園 ラーメンやまふく 回転寿司ちよいす 住吉郵便局 富良野信金 ホームセンターかわかみ かみつ歯科 大町交番 ロッテリア 附属中学校 自転車屋 ◇自己評価カードの工夫・まちの人に対する意識	
			町探検は楽しかったね	
2 みんなに知らせよう (6)	①	共通課題の設定	はっけんしたことを 分かりやすく つたえ合おう ◇町探検の写真の提示	
	③	個性的な追求活動	○多様な表現方法で探検で発見したことを分かりやすく伝える ・紙芝居, クイズ, 新聞	◇多様な表現方法へのアドバイス ・探検隊の表現方法による再グループ化
	②	まとめの活動 振り返り	町の人々は優しいね いろいろと大変そうだね 国語「調べたことを」との関連的指導	
第3次 もういちどまちたんけんしよう (8)	2	活動との出会い	もう一度町探検へ 出かけたがいね 道徳「わたしの仕事」との関連的指導	
		共通課題の設定		◇活動の見通しをしっかりとめさせる工夫 ・まとめの活動のイメージ化 ・調査内容, 方法の吟味
		活動への見通し	もう一度 まちたんけんに行って たんけんしたことを つたえ合おう	
	4	個性的な追求活動	町の人・もの・ことについてくわしく（もの・こと）調べよう	
		まとめの活動	○まとめの活動の準備	◇表現活動への助言や情報提供
2	振り返り	○探検再現活動	◇相互評価の工夫<評価の工夫>	
		もっと町の人となかよくなりたいね		
		本時1／2	○単元全体の振り返り	◇自己評価（これからの自分）<評価の工夫>

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- 意欲的にまちたんけん②の再現活動を楽しもうとする。
- まちたんけん②の再現活動を通して町の人々と自分とのかかわりの深まりに気づき、より一層町や町の人々に親しみや愛着をもつことができる。

(2) 本時の展開

主 な 学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ	研 究 と の 関 連
1 前時の学習を想起する 2 本時の活動の確認をする	○探検マップの提示	
たんけんしたところと〇〇さんを紹介し合おう		
3 コマーシャルタイム	各商店・施設ごとの発表について数十秒間ずつ紹介する時間をとる	・相互触発を活性化する交流活動環境構成の工夫 【視点3の3】
4 お店やさんごっこ的な発表交流活動をする ・グループごとにお店やさんとお客さん役に分かれて行う	・途中でお店やさんとお客さん(たんけんたい)を交替する	
5 本日の活動の感想交流をする	<p style="text-align: center;">— <感想交流の視点> —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの活動の工夫点 ・町の人々の気持ちになって ・自分とのかかわりから <p>○かかわりに気付かせる資料の提示(まちたんけん②から)</p>	・相互評価による自己認識の高まりへの工夫 【視点2の3】 ・収束を実感できる資料提示の工夫【視点3の3】
お話するのは楽しいね。町の人ともっとなかよくなりたいね		
6 自己評価	<p><自己評価の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とまちの人とのかかわり 	

◇授業を観察していただくために

- 2度の「たんけん活動」を生かした発表交流会の工夫は、自分と町(地域)の人への愛着への気づきの深まりに有効でしたか。
- 資料の提示は、自己認識の深まり(地域への愛着への気づき)に効果的でしたか。